

令和8年3月16日

石巻専修大学  
学長 阿部 知頭 様

石巻専修大学 自己点検・評価に関する  
「外部評価委員会」 委員長 芳賀 信幸



## 石巻専修大学に対する外部評価委員会報告書

### はじめに

令和7年11月11日(木)午前10時から石巻専修大学本館会議室1において、令和6年度石巻専修大学自己点検・評価に関する「外部評価委員会」が開催された。外部評価委員は、加藤美紀仙台白百合女子大学学長、難波智昭石巻地区高等学校長協会会長、武田健久東部地方振興事務所所長、阿部孝浩株式会社アイ・ケー・エス営業部部长代理、芳賀信幸石巻専修大学名誉教授、の5名であるが、会議には加藤委員は欠席し、4名の委員は出席した。なお、加藤委員からは後日、本会議の議事項目に関する所見が書面で提出された。大学側は阿部学長、今関満夫学校法人専修大学常務理事兼石巻専修大学事務部長事務取扱他、通常通りのメンバーで会議は行われた。

当日の会議は、前田敏輝自己点検・評価運営委員長の司会進行挨拶で始まり、阿部学長の挨拶を兼ねた第二次中長期ビジョンに基づく現状報告がなされた。続いて、芳賀委員、武田委員、阿部委員、難波委員からの自己紹介が行われた。その後、前田委員長の進行のもとに本会議の委員長選出が行われ、芳賀委員が委員長に選出された。

目黒事務課掛長から、配布資料の確認と、内容説明があり、学長から第二次中長期ビジョンの要点に含まれる7つの行動目標についての補足的説明があり、会議の目指す方向性が確認された。続いて、各学部・研究科の活動状況について、太田尚志理工学部代理・理工学研究科長、杉田博経営学部長、山内武巳人間学部長、三森敏正経営学研究科長、指方研二入学試験委員会委員長代理から、特に重要課題の明確化に力点が置かれた現状報告があった。

続いて、会議資料の概要説明に基づき、議事に入り、外部評価委員による点検・評価に関わる質疑・応答が行われた。本報告書では、各委員から提起された諸問題を体系的に整理し、石巻専修大学の今後の運営指針形成に役立つ形にまとめることを目指した。

### 大学全体の評価と今後の課題

#### I. 石巻専修大学の大学設置基準に関する評価に関して

令和6年度の報告書において、自己点検と評価に対して真摯に取り組んでいる状況が読み取れた。また、大学が掲げるブランドスローガンには、大学の使命として、教育研究活動に対する一貫した目標とその具現化の仕組みが簡明なロードマップの形に表記されている。

収容定員の充足化と退学率の減少に対する取り組みについても、全学的教学マネジメントの強

化及び教育・学修支援体制の充実化、等において目標達成に向けた改善の工夫が認められる。しかし、この点に関しては後段において今後の課題として取り上げる。

総じて、石巻専修大学は文理融合型の学部構成と大学院を擁する質の高い高等教育機関として、探究型学生選抜や理系女子選抜、外国人選抜などの多様な入学者受け入れ制度を掲げている。また、教学改革と広報戦略の一体化推進の努力も高く評価される点である。今後も、地域社会との深いつながりを通じた社会貢献と愛され親しまれる大学として、その個性と独自性に存在意義が発揮されることを期待する。

## II. 入学者数の確保に関して

少子化の時代において、大学入学者の定員確保は全ての大学に共通する最優先課題の一つである。本委員会では、評価委員と大学関係者の間で、これまでの努力に対する評価点と今後新たに取り組むべき目標について、活発な意見交換が行われた。以下に具体策設定への指針となるよう、その要点を項目別に列挙する。

### <新しい改善視点>

#### 1. 大学進学への早期動機づけにつながるプログラムの開発

大学は、小・中学生の段階から大学での学習意欲が醸成されるような働きかけを検討すべきである。そのために、街中での日常的な小・中学生参加型プログラムを構築するのは一方法である。

#### 2. 大学進学学費準備のモデル提案

保護者に対して、大学進学に必要な学費・その他の経費準備につながるロードマップ的なモデル提案を考えることも重要である。

#### 3. 大学の社会貢献活動の広報戦略

PTA への働きかけ・地域自治会会報などへの情報提供ネットワークを構築する。

#### 4. 教員採用の地域枠制度の活用

地元高校には教員採用における地域枠制度を持つ学校がある。この制度の主旨を理解し、大学卒業生が教員として地域の高校に就職する機会を広げる努力も有力である。

#### 5. 仙台圏域を中心とした広報活動地域の拡大策

仙台は全国の広い地域からの人的交流が高い。仙台市周辺の高校生・保護者に対する広報活動強化は学生募集戦略の新しいターゲットになる。

## III. 卒業生の実力向上に関して

卒業生が社会人として活躍することは大学の活性化に繋がるとともに、大学の社会貢献としても重要な機会をもたらす。特に、地元地域社会に対する貢献の効果は直接的で、教育・文化・教養の諸分野だけではなく、社会福祉・児童福祉などの人道・福祉関係においても貢献する例は多い。

1. 社会人になって、実生活の中で直接役立つ知識・技能の習得を目標とした学習プログラムの充実化を図り、大学卒業生のブランド化の向上に努める。例えば、AI使用に関して、技術面と倫理面の両面を一つのコースの中で学べる科目の設定や、近年著しい進歩を遂げている、ビッグデータ活用の際の統計解析法の学習プログラム、などが挙げられる。
2. 部活動、ボランティア活動などの課外活動に参加する学生を応援する制度の充実化を図り、運動・文化の両面から、学生が活発に取り組める動機づけと物理的支援体制を組み立てる。学力以外の人間性の涵養は大学教育の重要な目標の一つである。学生が学生から学ぶ機会の重要性を大学教職員は再認識すべきである。

#### IV. 地域連携の促進と強化に関して

地域を対象とする場合、石巻圏にとどまらず、仙台圏や宮城県などのより広い地域を視野に入れた企画立案が必要である。大学の設置を願っている地方自治体も存在するので、このような自治体との間での情報交換は、大学の地域貢献度上昇につながる可能性を秘めている。

1. 地域の教育体制の強化に貢献する方法として提案されたのは、大学の企画に学生も参加した実践活動の展開が挙げられる。このような活動には、部活動・ボランティア活動の他に、地元の自然探求や産業調査、などの探究学習的要素も含まれる。
2. 地域高校との個別連携を促進するために、大学からのサービス事業の内容周知を充実させる方法の検討
3. 高校若手教員に対する教科教育に関する助言・アドバイス及び教材資料の提供
4. 商工会議所への働きかけと連携強化の検討
5. 大学の魅力発信策として、SNS・大学案内編集方針・インフルエンサーとの連携などの具体的な内容検討

#### V. 今後の改善方針に関する提言事項

1. 新学科構想  
少子化対策と教育組織の再編を含む新学科の構想を検討する。
2. 生物科学科の学生募集方法の分析を基に、全学的な方法論を検討する。  
入学者確保と定員充足策として、各学科単位での情報発信には予算的制約があるため、大学全体をカバーする広いシステムの構築が必要である。
3. 「大学キャンパスの見える化」および地域企業と大学との連携事例を周知する方法を検討する。
4. 大学から発信する情報の内容精査  
具体例として、四季のキャンパス・地域交流の動画・学生の学びと生活の紹介シーン、インフルエンサーとの協働、プロスポーツチームとのタイアップなどが挙げられた。

## VI. 地元の高校教育現場からの大学に対する期待に関する諸項目

1. 学生の多様な学力階層性に対して大学教育の体制が整備されており、上位層と下位層に対する双方向教育を展開している。
2. 地域高校との個別連携の展開に関する高校教員からの所感として、
  - i) 高校卒業生が母校で大学生活のリアルな声を届ける仕組みは、卒業生にとってのやりがいにもつながる。例えば、学校行事のサポートなどで。
  - ii) 実業系高校からの提案として、高校で取得した諸資格の幅を広げるプログラム、例えば実験助手の免許取得後、工業教員の資格取得への展開など、の開発に努めてほしい。
3. 特別支援教育との連携性の強化策  
日常的な接点ができる仕組みづくりとして、現在大学が協力・支援している教育プログラムが地域教育界との恒常的連携へと発展するプログラムを期待する。
  - i) 特別支援学校の教員を目指す学生が在学中から連続的に現場に関わる仕組みづくり
  - ii) 地域枠採用のある高校との連携強化と体系化された取り組みの確立
4. 「大学で学ぶ魅力づくり」と「地元定着を見据えた連携強化」  
背景として、石巻地域の高校から石巻専修大学へ生徒を十分に送り込めていない現状がある。高校での「課題解決型学習」の取り組みを発展させる過程で、大学の魅力を生徒によりリアルに実感してもらえらる具体的な行動提案を考えてほしい。

### 具体策の例

- ・高校から大学、地元企業、自治体への就職まで一貫したルート作り
  - ・「地元で活躍できる」という明確なメッセージの構築
  - ・公務員志望者への支援と地域枠の活用強化
  - ・卒業生の声の発信強化
  - ・卒業後の長期的支援体制
5. 市・町と大学との連携強化：  
地方自治体では、奨学金による大学進学支援策や、卒業時の就職情報提供を強化する。  
大学では、寮の優先的活用や4年間継続メンター制の導入などを検討する。
  6. 大学進学意識の早期形成を促す連携の検討
    - ・小学生の段階から「地元での学びの魅力」を体験できる仕組みの形成と具体的取り組み
    - ・市と大学の対話から、保護者に学費に対する準備段階を小学生時代から始める取り組み

## VII. 教員からの現状認識と今後の課題・解決提案など

1. 小中学生段階からの広報活動と保護者に対するPRの重要性
2. 大学案内パンフレットの、保護者の関心事項に対する編集改革
3. 創造工学科構想と地域企業ニーズへの対応
  - i) 理工学部の工学系学科の中に、ビジネスの視点を組み込んだカリキュラム構成の検討
  - ii) i) の構想実現には、産学官連携の強化が不可欠であり、県及び各行政単位での協力体制

づくりを検討する。

iii) 地域の保護者に地元企業の情報を適切な形で発信し、「子供をきっかけに保護者への地域の資源を伝える」取り組みを始めた。

#### 4. 街中での学生活動の可視化と保護者への情報伝達

課題解決型授業の拡大や授業参観・教育実習などを通して大学教育の実体を発信する。

#### 5. 大学の高校に対する支援の周知と強化

「大学からの支援プログラム」を知らない高校もある。大学は周知の方法を検討する。

### VIII. 各学科の魅力発信と SNS 活用に関する外部評価委員からの提案

#### 1. インフルエンサーとの連携

仙台の企業の例では、著名インフルエンサーとの相互情報発信を展開している。

石巻に限定せず、仙台や県外にも届く形に発信力を強化することも重要。

インフルエンサーに、

i) 学生が開発した商品や研究成果の現地検分とその結果の発信

ii) 大学の研究現場の見学を通して、大学の魅力発信

#### 2. 石巻を取り巻く地域性を生かした情報発信

気仙沼から塩釜までの沿岸地域の大学は石巻専修大学だけである。この地政学的利点を生かして、沿岸漁業地域の広いエリアにネットワークを形成し、水産業の情報と大学の取り組みを発信し、大学主導型の「地域の魅力発信」システムを構築する。

### IX. 大学関係者からのコメント

1. 小中学校段階での教育連携強化に、今後はさらに意欲的に取り組む。

2. SNS の魅力あるコンテンツ作りに取り組んできたが、強化策が必要と実感している。

3. SNS 発信では、インフルエンサーや企業・団体、特に商工会議所との連携強化が重要であると認識している。

4. 地域連携と研究活動とのバランス確保の重要性を認識している。研究活動は大学評価の重要項目であり、大学発展の原動力の一つである。地域連携とのバランスの取れた両立を図る。

5. 入試広報における保護者層への働きかけの重要性を認識している。PTA 活動への積極的参入、保護者が触れる機会が多い媒体での情報発信などが効果的である、と考える。

また、「生活圏に自然に入る形」、の工夫も必要である。

・地域回覧板への大学情報の掲載

・地域お便り・広報誌への大学の話題提供

・小中学校・自治体との連携で日常的「大学見える化」の仕組み作り

6. 小学生向けサイエンス導入教育の可能性

大学教員の各分野で、小学生向けの導入実験や観察を企画する。

#### 7. 街中拠点を活用した地域向け企画の展開

地域に開かれた場としての拠点づくりでは、子供たちが気楽に立ち寄って体験できる企画や地域住民に大学の教育・研究と触れ合う機会を作る。

### X. 外部評価委員からのまとめと講評

1. この少子化の時代に、大学が持つ価値を地域に伝えていく努力はますます重要である。東部地区公共事業体も大学と共にその取り組みを進めていきたい。
2. 大学は、近年の著しい海水温上昇などの環境変動に伴う漁獲魚種の変化といった水産資源に関する現状を体系的に学べる場としての特徴をアピールできる。
3. 高校若手教員に対する大学からの専門的視点に基づく指導・助言の機会を設けることは、高校教員にとって大きな学びの場となる。また、石巻専修大学の魅力理解にもつながると思われる。
4. 学生が大学生活で学ぶ重要なポイントの中に、部活動やボランティア活動を通して「自分自身をよく理解するための機会」も付け加えるべきである。このような課外活動を通して学生には、自信と将来を見通す力、自分の使命についての主体的な判断力、などが育つようになると思われる。大学は学生同士の人間関係から育まれる学びの機会と環境づくりにも力を入れてほしい。

#### おわりに

本委員会としての大学に対する講評を以下の3点で統合的にまとめた。

1. 大学基準協会の設置基準に照らした石巻専修大学の現状に関しては、設置基準の達成・維持に取り組む姿勢を高く評価する。
2. 令和6年度の活動方針に基づいた反省と改善策は、各項目別に具体的な行動指針としてまとめた。大学は、チームワークを高め、迅速かつ適切な対応を検討していただきたい。特に、本委員会は提案事項の優先順位は定めていない。最優先事項の確認は大学教職員の共通認識のもとに設定し、現状分析を共有しながら進めていただきたい。
3. 大学教育の柱は、学習による知識の習得、実践的技能の獲得、誠実な人間性の涵養の3点に集約される。バランスの取れた学生指導に当たっていただきたい。

最後に、本委員会に参加された外部評価委員各位、学長、石巻担当理事をはじめ学内諸委員会を代表して出席された教員各位の協力に感謝するとともに、委員会開催に向けて尽力された事務部職員各位に謝意を表す。